



「どう遊ぶ？」

地域シニアが
子どもたちと共に遊ぶ

Q

A

第・ふれあい社会



公益財団法人
さわやか福祉財団

子どもは
遊びを通じてさまざまなことを学びます。

子どもにとっては
生活すべてが遊びであり、学びの場。

親子だけでなく、
いろいろな人と遊ぶことを通じて、
人に共感する力「共感力」が育まれていきます。

地域の宝である子どもたちを
地域みんなで育てることは
子どもの「共感力」を育むことにつながります。

「共感力」を育むには子どもの気持ちを中心に、
子どもと対等の立場で遊ぶことが大切です。

本冊子は子どもと接する際に、
どんな場面でどう心がければよいのかをまとめたものです。

気になるところがあれば、
その項目をぜひ、お読みください。

● 子どもと遊ぶ前の準備

- 6P ① 自分の年齢で、子どもとの交流ができるのでしょうか？年齢の上限は？
- ② 交流の場に行ったら、どんなことをしたらよいのでしょうか？事前に相談したり、確認しておくことはありますか？
- ③ 高齢者と子どもが楽しめるスポーツや体を使った遊びには、どのようなものがありますか？これらを教えてくれる団体はありますか？
- ④ 当日、その場に行ってまず確認することはどんなことですか？
- 7P ⑤ どのような服装がよいでしょうか。着替えは持っていくべきでしょうか？
- ⑥ 準備から片付けまで子どもと一緒にすることはできますか？
- ⑦ 使用する遊具や道具の手入れなど、衛生面で気をつけることは？
- ⑧ 初めての場所は緊張してしまいます。馴染むコツはありますか？

● 子どもと遊ぶときの注意点① 遊び方、関わり方

- 8P ⑨ 目が合うと、子どもが泣いてしまいます。
子どもと遊ぶのに向いていないのでしょうか？
- ⑩ 子どもとボール投げ。どのくらいの加減でやればよいでしょう。
- ⑪ 子どもと体遊びをしたいけれど、何かよい遊び方は？
- ⑫ 突然泣き出して、泣き止まない子。どうしたらよいですか？
- 9P ⑬ 一人でボツンと過ごしている子どもがいたら、どのように関わればよいですか？
- ⑭ 明らかに興奮して、自分のことを叩いてくる子ども。どうしたらよいですか？
- ⑮ 子ども同士がけんかを始めた。どのくらい見守ったらよいですか？
- 10P ⑯ 下の兄弟姉妹を連れた親子が参加してきたら、どのように関わればよいですか？
- ⑰ やたらと声をかけてくる子ども。
こちらの気を引こうとしているようですが、どのように対応したらよいですか？
- ⑱ 高齢者と子ども二人ひと組で新しいスポーツプログラムを始めようとしたが、ペアの子どもに、「おじいちゃん（おばあちゃん）はダメ」と言われました。
嫌われているのでしょうか？
- ⑲ 高齢者と子ども二人ひと組で取り組むプログラムでは、全員親しくなれるよう毎回組み合わせを変えていますが、特定の相手としか組もうとしない子どもがいます。
- ⑳ 前は積極的にプログラムに取り組んでいた子どもが、今日はまったく組もうとしません。

- 11P 21 とても小柄な子ども。
何かにつけて「○○ちゃんはちっちゃいから」と、できないことをアピールします。
- 22 夏なのにいつも長袖・長ズボンを着ている子どもにはどのように対応すればよいでしょう。
- 23 子ども同士がおもちゃの取り合いでけんか。取り上げた子に謝らせてよいですか？
- 24 おもちゃの入れ物を逆にして上っている子どもを叱りましたが、これでよかったでしょうか？
- 12P 25 子どもが突然家に帰りたいと言ってぐずり出したら、どうしたらよいでしょう？
- 26 いつものプログラムを始めようとすると、一人だけ別のことをやろうとする子。どのように対応したらよいですか？
- 27 特定のものや色に執着のある子ども。
今日はいつも独占している遊具が他の子どもに使われていて、不機嫌です。対応法は？
- 28 子どもが遊びを終えて帰ることにしたとき、やめるのを嫌がったり、次回いつやるのかの約束をほしがったとき、どうしたらよいでしょう？

● 子どもと遊ぶときの注意点② 言葉かけのポイント

- 13P 29 子どもにどのように声をかけたらよいのかわかりません。
- 30 女の子なのに戦いごっこをする、男の子なのにピンクの洋服やスカートをはいて来る…。
「女の子らしく」「男の子らしく」と注意したいのですが…。
- 31 友だちが遊んでいる輪に入りたいけれど、入れなくて困っているみたい。
どんな風に声をかければよいですか？
- 32 きょうだいで遊びに来ている上の子が、言うことを聞かず、
「お兄ちゃんなのに、できないと恥ずかしいよ」と言ってしまいました…。
- 14P 33 乱暴な言葉使いや振る舞いが気になる子どもには、どんな風に声をかければよいですか？
- 34 じっとしていられず、人の話を聞けない、すぐに外に出て行こうとするなど、
ルールを守るのが難しい子どもにイラッとするのですが…。
- 35 高いところによじ登る、棒を振り回すなど、
危険な行動をとる子どもをうまく制止するにはどんな言葉をかけたらよいですか？

● 活動内容・プログラムの注意点

- 15P 36 どのくらいの頻度で子どもたちと交流できるのがよいのでしょうか？
あまり時間が空くと、忘れられてしまいますか？
- 37 子どもと高齢者の体力は異なります。
プログラムの立て方、飲み物の用意、休憩について、どのような配慮が必要でしょうか。
- 38 おやつタイムを設けたい。気をつけるべきことは？
- 39 子どもたちが場に馴染めるよう、プログラムを始める前後に自由遊びの時間を設けたい。
準備しておくべきような遊具はありますか？

● 保護者との関わり

- 16P 40 挨拶しても目を合わせてくれないママ。どうしたらよいでしょう。
- 41 子どもを連れてきたのに、ほったらかしのママ。何か言ったほうがよいですか？
- 42 ママがひどく疲れているみたい。何かできることはありますか？
- 43 子どもを怒鳴りつけているママがいます。どうしたらよいでしょう。
- 17P 44 新しいプログラムを始めたい。子どもや保護者にも相談するべきでしょうか？
- 45 「子どもと接する際、子どもの普段の様子について保護者に質問することはあるが、保護者のプライベートについては極力触れない」。このようなスタンスで臨んでいることを、保護者にどのように示せばよいでしょうか。
- 46 いつも来てくれている親子と商店街でばったり会いました。こちらから挨拶しましたが、親（子ども）に無視されてしまいました。

● 保護者から質問を受けたら

- 17P 47 「うちの子は好奇心が強く、少し目を離すと勝手に道路など危険な場所に出てしまいます。そのような危険は、どのように防いでいただけますか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。
- 18P 48 「うちの子どもには、うそをついたり、隠しごとをしたり、不誠実な答えや態度をしないようしつけていますが、遊んでいただくとき、そういう点については、どのような姿勢で接していただけますか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。
- 49 「うちの子どもは気が弱くていじめられやすいのですが、どのように言っていただけますか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。
- 50 「うちの子どもは乱暴なところがあって、わがままなのが心配ですが、叱ると反発し、言うことをきかなくなり、泣き続けて隠れてしまったりします。うまく対応していただけるのでしょうか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。
- 19P 51 「うちの子どもは、自由な発想ができる人間に育つように、なるべく仕切らず、自分で考えさせたり、どうしたいか意見を聞いて対応するようにしてきているのですが、そういう点についてはどのようなご配慮をいただけるのでしょうか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。

● そのほか知っておきたいこと

- 19P 52 風邪や手足口病など、子どもが集まる場で流行する感染症があるけれど、高齢者が気をつけなくてはいけないのはどんなこと？今、流行している感染症を知る方法や対応の仕方も知っておくべきですか？
- 53 万が一のために、救急救命法の講習を受けたり、避難ルートの確認をしておいたりしたほうがよいですか？

子どもと遊ぶ前の準備

1

自分の年齢で、子どもとの交流ができるのでしょうか？ 年齢の上限は？

年齢の上限は、基本的にはないと思います。年齢というよりも、たとえば体を動かすような交流なら、体力的なことや、「ある程度体を動かすことができるか」ということはあるかもしれません。園や児童館、地域子育て支援拠点が考える交流の内容によっては、車いすで参加できる場合もあるかもしれません。

まずは地域のボランティア募集などを探し、相談するとよいでしょう。

2

交流の場に行ったら、どんなことをしたらよいのでしょうか？ 事前に相談したり、確認しておくことはありますか？

事前研修や事前レクチャーなどでルールや関わり方を知り、自分の役割を確認しましょう。どのような流れで行うのかなどを聞き、自分は何をしたらいいのかを聞いておくと、それに沿ってサポートすることができます。

主催者の行事の目的などもありますので、事前に自分の役割を確認しておくことはとても大切です。



3

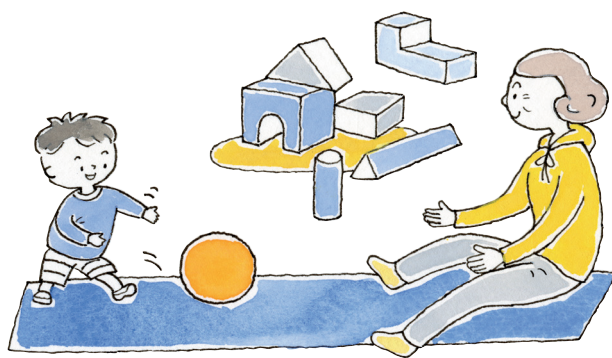
高齢者と子どもが楽しめるスポーツや体を使った遊びには、どのようなものがありますか？ これらを教えてくれる団体はありますか？

「高齢者と子ども」と考えると、動きが激しくないスポーツや遊びがいいかもしれません。園の先生などは、いろいろ情報を持っていると思います。

障がい者スポーツに、ポッチャやシッティングバレーボールなどがありますが、そのような要素を入れた遊びもおすすめです。ポッチャは、ボールを投げて、標的にどれだけ多くのボールを近づけることができるかを競う競技です。シッティングバレーボールは、床に座ったまま行うバレーボールです。競技のルール通りにしなくても、高齢者と子どもが交流できるようにアレンジしてみるとよいでしょう。

風船をつきあってバレーボールのように遊ぶのも楽しいですし、動ける方ならスズランテープ（ナイロンテープ）などをネット代わりにしても楽しく遊べます。

低年齢なら、子どもと向き合って座り、ボールを転がすだけでも楽しめます。地域の社会福祉協議会などに聞いたり、インターネットなどで探してみるのもおすすめです。



4

当日、その場に行っても確認することはどんなことですか？

当日は、時間に遅れないように集合しましょう。可能なら主催者に相談し、少し早めに会場に行って、子どもはもちろん高齢者がつまづかないか、危ないものはないかなど、場所や使う道具なども事前に確認できるといいですね。



5

どのような服装がよいでしょうか。着替えは持っていくべきでしょうか？

服装や靴、帽子着用などは、主催者に確認しましょう。新しく購入する必要はないと思いますが、スポーツや活動の内容に合わせ、動きやすい服装がよいでしょう。

靴は履きなれたものにし、紐がほどけやすい靴は転んでしまう可能性もあるので避けましょう。激しく動く活動の場合は、着替えも持参するとよいでしょう。

更衣室などはないかもしれませんが、事前に確認しましょう。高齢者の場合、喉が渇いた感覚が弱まるため、暑い季節でなくても水筒などを持参してこまめに水分補給することが大切です。

6

準備から片付けまで子どもと一緒にすることはできますか？

参加する子どもの年齢によります。月に1、2回などの定期開催なら、準備から一緒に行くのもOKだと思います。しかし、大人が要求するほど子どもがきちんと準備ができるとは限りません。ついつい小言を言ってしまうたり、指導したくなってしまうたりして、肝心の「子どもと遊ぶ・楽しむ」が二の次になってしまったりはもったいないですね。

集めた落ち葉で遊んだ後は、焼き芋を焼いたり、破った新聞紙を袋に詰めてクッションにして遊んだり、といった楽しいあと片付けなら、すべてが遊びになって、また子どもたちが「やりたい！」と言うようになるかもしれません。先生とも相談してみましょう。

7

使用する遊具や道具の手入れなど、衛生面で気をつけることは？

遊具の木の柱が地中で腐っている、遊具からくぎが出ている、ねじがゆるんでいるところがあるなど、子どもが気づきにくい危険（＝見えない危険）には、特に注意しましょう。大人の目線では気づかないけれど、子どもの目線にたったときに、走ってきた子どもの眼に棒が当たる、足元がつかずくなどの危険が潜んでいないか、大人みんなで確認するようにしましょう。

衛生面では、こまめに手を洗う、消毒液で拭くなども大切です。マスクはつけたほうがよいですが、子どもが激しい運動をしているときには、熱中症に気をつけなければなりません。適度な水分補給と休息が必要です。障害など何らかの理由でマスクがつけられない子もいるこ



とを理解し、いきなり叱りつけたり、マスクを強要することがないように、気をつけましょう。

8

初めての場所は緊張してしまします。馴染むコツはありますか？

子どもと遊ぶのは、お仕事でも義務でもありません。ご本人がリラックスできる工夫が必要です。緊張しやすく心配なら、可能であれば事前に見せてもらいましょう。

また、何か簡単な役割がないか聞いてみましょう。何か役割があると緊張しにくくなるでしょう。緊張すると怖い顔になってしまうこともありますね。自宅で鏡を見て、笑顔の練習をしてみるのもよいでしょう。微笑みながら子どもたちを見守っていたら、きっと緊張も薄らぐと思います。

子どもたちは、自分の方を見て微笑んでくれている大人には安心して近づこうとします。相手の子どもも緊張しているときは、急に距離を縮めようとせず、程よい距離で暇そうにしていると、子どものほうから近寄ってきてくれることもありますよ。

子どもと遊ぶときの 注意点①

遊び方、 関わり方

9

目が合うと、子どもが泣いてしまいます。子どもと遊ぶのに向いていないのでしょうか？

子どもは、生後半年くらいになると人見知りをします。個人差があり、子どもによってはその日の気分で、2歳代くらいになっても泣いてしまう子もいるでしょう。

子どもは、相手が信頼できる人なのかどうか不安で泣いてしまうのです。それは無理のないことです。あせらないことが大事。慣れてくれば、だんだん関われるようになってと思います。いきなり近づいたり、体に触れると余計泣いてしまうので、遠くから見守りつつ笑顔を向けていると、次第に慣れてくるでしょう。

慣れるまでは、目を見つめすぎないことも大切です。「嫌われてしまうかも」と腰が引けていると、なかなか仲良くなれないこともあります。こちらから先に相手の子どもを好きになると、子どもはいつの間にか心を開き、近づいてくれることはよくあります。

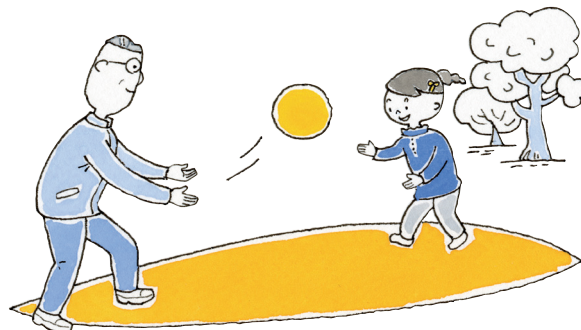
10

子どもとボール投げ。どのくらいの加減でやればよいでしょう。

ボール投げは、相手に合わせる対話のようなものでもあります。相手のいる方向に、相手がこちらを見ているタイミングで、受け取りやすいように投げるのが基本です。子どもはまだ加減ができないでしょうから、いろいろな方向にボールが飛んでしまうかもしれません。ぜひ、子どもが受け取りやすいように投げてみてください。子

どもも「ボールを受け取れた」ということが成功体験になり、一層ボール投げが好きになるでしょう。

「へたくそ」「うまい」など、評価につながる言葉がけよりも、楽しむことが大事です。子どもが投げたボールがそれたとき、背後に幼児がいないかなど、常に後方に気を配ることも忘れないようにしましょう。



11

子どもと体遊びをしたいけれど、何かよい遊び方は？

子どもにとっては、すべてが遊びになります。追いかけっこでもいいですし、手の平をかざして「ここまでジャンプしてごらん」と、ジャンプ遊びも楽しいでしょう。小さい子どもなら、立ったまま足を開き、股の間をくぐる遊びも喜びます。子どもと触れ合いながら、いろいろな遊びを見つけてみましょう。

四つん這いになってお馬さんごっこ等は、「僕も!」「私も!」と子どもたちが寄ってきて、体力を消耗します。くれぐれも、自分の体力を過信しないことが大切です。子どもの安全確保は最優先で行いましょう。

12

突然泣き出して、泣き止まない子。どうしたらよいですか？

大人同士だと、急に泣いたり泣き止まないということはあまりありませんから、とても戸惑うと思います。でも子どもは、泣くことで、悲しかったり悔しかったりする気持ちを爆発させています。なかなか泣き止まないこともあります。それは気持ちの切り替えに時間がかかっているからでしょう。ぜひやさしく声をかけながら寄り添ってください。

ずっと泣いているようなら、先生や担当者に確認したうえで、廊下に出たり、窓の外を見せるなど、子どもの気分転換を手伝ってみましょう。

13

一人でポツンと過ごしている子どもがいたら、どのように関わればよいですか？

まずは、見守ることが大切です。つい一緒に行動するように促したくなりますが、様子を確認している子、一人で自分の世界を楽しんでいる子もいます。年齢や子どもの個性によって、外の世界と自分の世界を行ったり来たりしながら、自分の気持ち（輪に加わらずに見ていた、一緒にやりたいけどもうちょっと様子を見たいなど）を確認していたりします。「一緒に遊んだ方が楽しいよ！」など、無理強いはいないようにしましょう。

近くで「こんにちは」と声かけしたときに、すぐに反応が返ってくるようだったら、いきなり集団に誘わず、ゆっくりとお話したり、その子の様子に寄り添って、そばにいるのもよいでしょう。みんなの仲間に入りたそうだと感じられたときに、初めて誘ってみるのもいいかもしれませんね。



14

明らかに興奮して、自分のことを叩いてくる子ども。どうしたらよいですか？

自分の気持ちをコントロールできず、子どもも困っているでしょう。ただし、子どもは、「自分の気持ちの爆発を、相手を叩くことで納める」ことを学んではいけません。あなた自身も叩かれることを我慢せず、制止することが大切です。「人に暴力をふるってはいけません」と正論を伝えるよりも、「痛いから叩くのはやめて」というような感じで、「私」を主語にして、きっぱりと気持ちを伝えるのがポイントです。暴れてしまうようなら、抱きしめるのも一つの方法です。しばらく抱きしめたら少し落ち着くでしょう。

ただし、発達障害の子どもの中には、体に触れられる

とずっと怒る子もいますから、注意が必要です。目の前に怒りの対象となる子どもが視界に入ったままだと、怒りがおさまらないケースもあります。そんなときは、一緒に移動するなどして、その子が見えないようにする工夫が必要な場合もあります。

落ち着いたたら、「さっきはどうしたの？」と、子どもに理由を聞いてみましょう。言葉を受け止め、「じゃあ、そういう気持ちになったら、今度はどうしたらいいかな」と、子どもと相談してみましょう。クッションに叫ぶなど、何でもいいと思います。人にぶつけずにクールダウンする方法を、子どもと相談してみましょう。

15

子ども同士がけんかを始めた。どのくらい見守ったらよいですか？

大人はけんかをさせたくないと思いますが、子どもにとって、けんかはコミュニケーションを学んでいる過程。けがをしそうなら止めに入りますが、言い合い程度なら少し様子を見守ってもよいでしょう。

エスカレートした場合は、場を変えるのも一案です。机ををさんで「ここで相談してください」と言うと、子ども同士で「〇〇君が、こうしたから」など、言葉で説明し始めます。少し冷静になって、自分たちで解決できることもあります。

怒りがおさまらず、どうしてもその子に殴りかかってしまう場合には、お互いが見えないように引き離すことが効果的な場合もあります。視界の中に入っている間は、自分でも止められないけれど、見えなくなったとたんに違うことに気を向けられる子もいます。

いずれにしても、けんかはコミュニケーションの練習になります。大人があまり介入しすぎないことも大切です。本人同士が納得していないのに、大人がでしゃばって「握手して終わらせる」という解決の仕方は、あまりお勧めできません。自分がイヤだった気持ちをしっかりと言葉で伝えあえるように見守れるといいですね。



16

下の兄弟姉妹を連れた親子が参加してきたら、どのように関わればよいですか？

下のお子さんへの対応についての希望を、ママパパに尋ねてみましょう。親は下の子の世話をし、上の子を遊ばせたいこともありますし、下の子を見てもらって親は上の子との時間を過ごしたいという希望もあるでしょう。親の希望をまず聞いて、子どもと関わるのが大切です。

17

やたらと声をかけてくる子ども。こちらの気を引こうとしているようですが、どのように対応したらよいですか？

声をかけてくるというのは、あなたに興味を持ち、「関わってほしい」「かまってほしい」と思っている証拠です。「なあに？」「どうした？」などと、普通に会話してみましょう。体力的に問題なければ、鬼ごっこをしたり、子どもがあなたによじ登ってみるなど、体を使った遊びも楽しめるかもしれません。無理のない範囲で、ぜひ関わってみてください。

イラッとする言葉をぶつけてきたときは、子どもの試し行動、SOSシグナルかも知れません。いきなり叱らずに、話を聴いて、思いを受けとめてあげてください。

18

高齢者と子ども二人ひと組で新しいスポーツプログラムを始めようとしたら、ペアの子どもに、「おじいちゃん（おばあちゃん）はダメ」と言われました。嫌われているのでしょうか？

これは、珍しいことではありません。大人同士でもですが、子どもにも「相性」があるでしょう。「そんなこと言わないで、1回やってみてよ」と、笑いながら相談してみてもどうでしょう。子どもも社会性がありますから、「じゃあ1回ね」などと、一緒にやってくれるかもしれません。

「どうして？」と聞いてみたり、場合によってはほかの方と替わってもいいかもしれません。その日の気分かもしれませんし、決まっていることをちょっと否定したい気分なのかもしれません。「嫌われている」と気にしすぎなくて大丈夫です。

19

高齢者と子ども二人ひと組で取り組むプログラムでは、全員親しくなれるよう毎回組み合わせを変えていますが、特定の相手としか組もうとしない子どもがいます。

その子にとって、その方が安心できる相手なのでしょう。自分の意思が伝えられることは、いけないことではありません。「1回だけ一緒にやろう」と誘ってみて、楽しかったらその経験から「また、この人とやりたい」となるのは自然な流れですよね。

毎回相手が変わるのは、緊張を伴います。全員親しくなれるようにと無理をしなくても、ゆっくりと違う人とも出会えるように工夫していけばよいと思います。子どもの気持ちも大事にしつつ、声がけや、遊びの内容などで工夫してみるといいでしょう。

20

前は積極的にプログラムに取り組んでいた子どもが、今日はまったく取り組もうとしません。

大人もそうですが、子どもも「なんだか今日は元気が出ない」という日もあるでしょう。無理強いせず「今日は、どうしたの？」「何かあったの？」と聞いてみるといいかもしれませんね。話してくれないかもしれませんが、その場合は「話したくなったら教えてね」と伝えるとよいでしょう。子ども自身、なぜ気が乗らないのかを言葉にできないこともありますし、話したいタイミングもあります。「いつでも聞くよ」という雰囲気伝えておくことが大事です。

気乗りがしないときは、無理に参加させようとしないことも大切です。目的は「楽しく遊ぶ」ことであって、義務のように無理にプログラムに参加させることではありません。「やめたいときはやめてもいい」という雰囲気作りが、長く続けられるコツでもあります。

21

とても小柄な子ども。何かにつけて「○○ちゃんはちっちゃいから」と、できないことをアピールします。

親や上の子がそのように声をかけている可能性もあります。または、子ども自身が、「こんなこと、きっとできない」と失敗を恐れているのかもしれません。「これだったらできるかな？」と、ちょっと目標を小さく簡単にして提示してみるのも一つの方法です。

体の小さいことが得になるような遊びを取り入れてみるのもいいですね。でも、そもそも、できなくたっていいんです。「うまくできなくてもいい」「失敗してもいいんだよ」という空気があると、「挑戦してみようかな」と思えるようになります。「何でもかんでもできるようにしてあげよう」という大人の視線が強い中では、子どもは心から安心して遊べません。「やりたくないことはやらなくてもいい」という雰囲気があるといいですね。



22

夏なのにいつも長袖・長ズボンを着ている子どもにはどのように対応すればよいでしょう。

親が忙しく、半袖の準備をしていなかったり、出していないのかもしれませんが。夏に長袖・長ズボンだと汗をかいて不衛生になったり、熱中症なども心配です。

子どもによっては、アトピーなどかき壊さないようにと長袖を着せられている場合があるかもしれません。できものや人に見られたくないあざなどがあるのかもしれません。先生や担当者に状況を聞いて見るのもいいですね。

一方で、暑がりなどで、一年中半袖・半ズボンの子どももいます。本人がそれを好むなら、そのままでよいでしょう。「寒くないの？」という声かけくらいはOKですが、「今の季節におかしい」などと叱ったりするのはやめましょう。

23

子ども同士がおもちゃの取り合いでけんか。取り上げた子に謝らせてよいですか？

子ども同士がおもちゃの取り合いをした、一方が手をあげたなど、子どもと関わっているいろいろなことが起こります。部分的に見てジャッジせず、一連の言動を観察し、前後の流れで子どもそれぞれの気持ちに寄り添い、それぞれの気持ちを受けとめ、場合によっては代弁してあげることが求められるような場合もあるかもしれません。

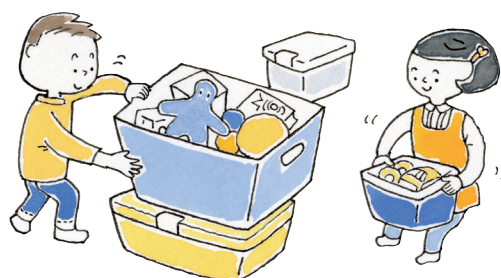
原則は、子どものけんかには介入しないこと。大きなけがになるリスクがなければ、けんかを通じて、子どもたちは成長します。近くにいる危険がないかだけ見守っていればよいでしょう。ただし、施設運営者に情報は共有しておきましょう。

24

おもちゃの入れ物を逆にして上っている子どもを叱りましたが、これでよかったでしょうか？

子どもと接するとき、危険な状況でないかを察知することは大事です。本当に危険なら、制止しましょう。ただ、大人の考えることとは違う遊びを発見する子もいます。おもちゃの入れ物に上ると壊れて危ないなら制止する必要がありますが、おもちゃの入れ物も遊び道具と考えてみると、新たな遊び方の発見ととらえることもできるでしょう。

また、ルールを決める場合は、子どもたちと一緒に決めるとよいでしょう。「おもちゃの入れ物を移動すると危ない」とルールを決めたら、それを子どもに伝えましょう。また、子ども自身が台に乗って、何かになりきるなど表現したい場合もあります。そのときは、可能な方法を子どもと一緒に見つけてみるとよいでしょう。大人の遊び心が試されているかもしれませんね。



25

子どもが突然家に帰りたと言 ってぐずり出したら、どうした らよいのでしょうか？

そのときの状況にもよりますが、朝、保護者と別れたときに泣いているのなら、今日の活動など楽しいことを伝えたり、おもちゃで遊びながら、場の雰囲気慣れるように配慮しながら対応していきます。

活動の途中などで急に「家に帰りた」とぐずり出した場合は、何か急に思い出したり、悲しいことがあったのかもしれません。気持ちに寄り添いながら対応していきます。

ただ、状況によっては、子どもの体調が悪いなどのSOSの場合もあります。子どもの様子を丁寧に見ながら、子どもの気持ちも聞きつつ主催者と共に状況判断し、必要と判断した場合にはご家庭に連絡して、どのように対応するかを相談するとよいでしょう。

26

いつものプログラムを始めよう とすると、一人だけ別のことを やろうとする子。どのように対 応したらよいですか？

新しい遊びを思いつく子どもは、とても想像力があると思います。先生と相談して、内容によっては、子どもの発案を取り入れてみてもいいかもしれません。大人はいつも同じプログラムを繰り返してしまいがちですが、子どもの発想を組み込むと、新しい遊びや発見につながることもあります。

27

特定のものや色に執着のある子 ども。今日はいつも独占してい る遊具が他の子どもに使われて いて、不機嫌です。対応法は？

「これが大好き」と意思表示できることも大切です。執着すること自体は否定せず、ほかの遊びに誘ってみましょう。別な遊びが楽しかったら、翌日はまた同じ遊びをせがんでくるかもしれません。子どもは繰り返しが大好きなのです。

お気に入りの色がある子もいますね。その場合も「今日はこの色にしてみたら？とっても似合ってるよ」など、新しい可能性を伝えてみると、意外と気に入ってくれるかもしれません。

ただし、障害などが背景にあり、こだわりが強くて「どうしてもこれじゃなきゃいやだ」ということもあります。その子に向かって「わがままな子だね、がまんしなさい」と言っても、簡単には伝わらないケースがあるということも理解しておくとういでしょう。

28

子どもが遊びを終えて帰ることにし たとき、やめるのを嫌がったり、次 回いつやるのかの約束をほしがった とき、どうしたらよいのでしょうか？

遊びをやめたくないほど遊び込んでくれたり、「次回、いつやるの？」と聞いてくれるのは、その遊びがとても楽しかったということでしょうから、とてもうれしいことです。

遊びをやめるのを嫌がる場合には、理由を聞いてみます。「もうちょっとで完成する」と言っていて、時間的にも余裕があるなら完成まで少し待ってあげるのもいいですね。

なかなか気分が切り替わらないときや、もう帰らなければならない時間なら、気分の切り替えを手伝ってみます。「おうちに帰って、今日はママと何するのかな？」など、この後に面白そうなことがあるというような情報を伝えと、切り替えやすくなったりします。

次回の約束については、可能ならぜひかなえたいところですが、でも、内容によってはその場で必ずやると確約することが難しい場合もあります。そのようなときは、「またできるように、今度先生とも相談してみるね」「またできるように、明日先生にお願いしてみようね」などと、子どもに伝えとよいと思います。子どもの「やりたい」気持ちを大事にしたいですね。



子どもと遊ぶときの 注意点②

言葉かけの ポイント

29

子どもにどのように声をかけたらよいのかわかりません。

まずは、「おはよう」「こんにちは」など、挨拶することから始めてみましょう。しゃがむ、座るなどして子どもと目線の高さを合わせてみましょう。無理に話しかけたり、「一緒に遊んであげなくちゃ」と意気込む必要はありません。子どもが場に慣れ、おもちゃに手を伸ばし始めたら、寄り添いながらやり取りしてみましょう。

そのときに大切なのは、「こうやって遊ぶものだよ」などと決めつけて伝えないことです。子どもはいろいろな遊び方を発見していきます。遊びの基本は、子どもの「やってみたい」に寄り添うこと。「正しい遊び方を教えよう」などと考えないことです。「そんな遊び方もあるんだ」と、子どもに気づかされることもたくさんあります。楽しみながら接してみましょう。



30

女の子なのに戦いごっこをする、男の子なのにピンクの洋服やスカートをはいて来る…。「女の子らしく」「男の子らしく」と注意したいのですが…。

「女の子らしく」「男の子なんだから」は禁句です。おもちゃや色、洋服、遊び方や物の選び方に男女の区別は

ありません。その子らしく遊び、楽しめていることを尊重しましょう。「男のくせに、これくらいできないと恥ずかしい」とか「女の子に負けるなんて、みっともない」といった言葉がけも、子どもの自尊感情を傷つけるので、気をつけましょう。

また、絵本などを通して、「運転手さんは男性」「家でご飯を作るのが女性」など、自分自身が無意識にとらえていることもあります。子どもと接するとき、そのような偏った言葉がけをしていないか、ときどき見直してみるといいでしょう。

31

友だちが遊んでいる輪に入りたいけれど、入れなくて困っているみたい。どんな風に声をかければよいですか？

子ども自身にもタイミングがあります。輪に入れない子どもは、友だちの様子をうかがっているのでしょう。無理やり遊びの輪に入らせるのは逆効果のこともあります。まずはあなた自身が友だちの輪に入って一緒に遊んでみて、その子と目が合ったときに「一緒に遊ばない？」と声をかけ、きっかけを作ってみるのもよいと思います。

32

きょうだいで遊びに来ている上の子が、言うことを聞かず、「お兄ちゃんなのに、できないと恥ずかしいよ」と言っていました…。

「お兄ちゃんなのに、できないと恥ずかしいよ」など、きょうだいやほかの子と比べたり、辱めるような言葉をかけるのはNG。家庭とは違う場所のため不安で甘えている、または、もともとそのようなことが苦手ということもあります。比較せず、子ども自身を見て、困りごとに寄り添うことが大切です。

弟や妹が生まれて家ではなかなかわがママが言えず、ストレスをためこんでいるのかもしれませんがね。こんなときこそ親でも先生でもない「第3の大人」の出番。いっぱい遊んでたまったストレスを発散させることができれば、すっきりすることもあります。

また、靴を履くなどが難しければ、履きやすいようにサポートしたり、「こうしたらできるよ」と寄り添ってあげるのもよいでしょう。

乱暴な言葉使いや振る舞いが気になる子どもには、どんな風に声をかければよいですか？

乱暴な言葉使いは、大人の真似をしていることもあります。怒りの感情にまかせ、汚い言葉で叱ることは気をつけましょう。寄り添う大人として、「なぜ、そんな言葉を使うの？とてもいやな気持ちになったよ」など、子どもにも敬意をもった言葉で話してみましょう。また、「おしっこ」「うんち」「はなぐそ」などの言葉は、大人が反応するのが面白くて使うこともあります。絵本などで楽しむときは別ですが、それ以外は過剰に反応しないことも大切です。

乱暴な振る舞いをするのも、大人の真似をしていることがあります。また、暴力をふるう子は、親や大人からの暴力の被害者であることはよくあります。なぜ手や足が出てしまうのか、その子の怒りの底にある悲しさなどを受け止めてあげることも必要です。

また、乱暴な子は、常に怒られてばかりになることも多くあります。乱暴な行為は制止して、「肯定的注目」といいますが、良い行動をしたときに注目して認める声かけをしてみましょう。

不快な感情になると、すべて暴力となって出てしまう子どもがいます。成育のプロセスで、負の感情を「寂しかったね」「いやだったね」「怖かったね」などと言葉にして気持ちを受け止めてもらえなかった子どもたちが、暴力をふるってしまうことが多々あるのです。日頃からイヤだったことを、周囲の大人が様々な感情を表す言葉を使って受け止めてあげる積み重ねの中で、「こういうときは『寂しかった』』と言えば暴力を振るわなくてもよかったんだ」と、学習していくことが大切です。

家庭の事情なども考慮し、園の保育士や幼稚園教諭、拠点の担当者などにも共有して、連携しながらサポートできるとよいでしょう。

じっとしていられず、人の話を聞けない、すぐに外に出て行こうとするなど、ルールを守るのが難しい子どもにイラッとするのですが…。

個人差もありますし、低年齢の場合にはよく見られる行動です。「子どもの成長は点で見ず、線で見ると言

われますが、少し長い目で見守りましょう。「立ち歩かないで」ではなく「お尻を床につけて座ろうね」など、否定でなく肯定的な声かけを心がけてみましょう。

まれに発達障害など発達上心配なお子さんもありますが、保育士や幼稚園教諭なども把握していると思います。気になることは先生に情報提供し、あなた自身は見守り役に徹するとよいでしょう。

大切なのは、「困った子」ではなく「困っている子」と考えること。自分の意志に反して、どうしても体が動いてしまったり、奇声を発してしまう子もいるかもしれません。できていないことよりも、その子ができること、光るところに注目してあげてください。あなたの役割は、子どもと楽しく遊ぶこと。指導は先生たちに任せ、その子の存在をまるごと受け止められるとよいですね。

どうしてもその子に怒りが湧いてしまうようだったら、「自分のものさし」を疑う練習もよいでしょう。それまで自分が生きてきた環境や時間、経験の中で手に入れた価値観が絶対に正しいのか。周りの保育士さんや先生たちがその子を受け入れている様子を見ながら、「これもありなのか」と気づかされる経験も、豊かなことです。

高いところによじ登る、棒を振り回すなど、危険な行動をとる子どもをうまく制止するにはどんな言葉をかけたらよいですか？

高いところによじ登るには、体を支えてバランスを取る身体能力が必要です。園庭などによじ登れる遊具があるといいのですが、室内では危険な場合もあるので、「危ないから登らないでね」と声をかけましょう。また、先生と相談し、登れないような室内環境作りも大切です。

棒を見つけると持ちたくなり、戦いごっこのような感じで振り回す子もいます。大切なのは、慌てて大きい声で怒鳴りつけたりせずに、状況を確認すること。周りに小さい子はいないか、割れるような物はないかなどにまずは気を配りましょう。人気アニメの主人公になって優しく「ごっこ遊び」をしているのか、本気で戦っているのか、見守ってあげられるとよいですね。

明らかに危険が感じられたら、「今ここではやめようね」といったん制止し、棒を受け取ることが必要な場合もあります。また、園庭で壁の的に向かって、剣道のように棒を当てたり、上から釣り下げた棒を棒で落とすなどの遊びにしてしまうアイディアもよいでしょう。安全を確保したうえで、遊びにする工夫を施すのも一案です。

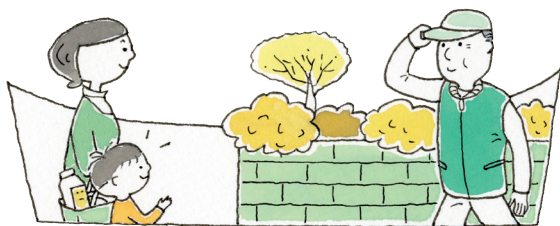
活動内容・ プログラムの 注意点

36

どのくらいの頻度で子どもたちと交流できるのがよいのでしょうか？あまり時間が空くと、忘れられてしまいますか？

いくつかの園や子育て支援拠点など、地域の中に複数の交流場所があるかもしれませんが、ある程度継続して関わらせてもらうとよいと思います。ただし、園や子育て支援拠点の考え方や方針などによって、頻繁に交流がない場合もあります。問い合わせて「継続して関わりたい」と相談してみましょう。

たまにしか交流できなくても、子どもたちが覚えていて近所ですれ違ったときに声をかけてくれるかもしれません。園や拠点だけでない地域での関わりも広がってけるとよいと思います。



37

子どもと高齢者の体力は異なります。プログラムの立て方、飲み物の用意、休憩について、どのような配慮が必要でしょうか。

毎回のプログラムについては、主催者と一緒に相談できるようなら、ぜひ高齢者の意見も伝えてみましょう。

プログラムの内容によっては、部分的に子どもと一緒に参加するなど、臨機応変に対応するのもよいでしょう。

一番大事なのは、高齢者自身が無理をしないことです。具合が悪くなったり、無理をしてけがをするなどがあれば、主催者にも負担がかかります。体調を見て休憩しながら参加するなどしましょう。子どもとすべて一緒に活動しなくても、温かいまなざしで見守ったり、応援するだけでも、子どもたちは楽しく過ごせるでしょう。

38

おやつタイムを設けたい。気をつけるべきことは？

おやつタイムは楽しい時間になるので、主催者に提案してみるのもよいでしょう。子どもの中には食物アレルギーの子もいますから、自宅から持ってきたおやつを勝手に与えてはいけません。また、子どもの年齢によって、誤飲を避けるためにおやつのおおきさなども工夫する必要があります。親御さんの意見も聞き、先生と相談しながら取り組みましょう。



39

子どもたちが場に馴染めるよう、プログラムを始める前後に自由遊びの時間を設けたい。準備しておくような遊具はありますか？

主催者の先生方と相談してみましょう。静と動を組み合わせるのも有効ですから、運動遊びのプログラムの前なら、掛け声を出したり、少し動きのある絵本などを興味のある子どもたちに読み聞かせるのもよいかもしれません。小さなペットボトルにビーズやお豆、小石などを入れた手作りおもちゃのマラカスなどを置いておくと、動きがある遊びにつながります。



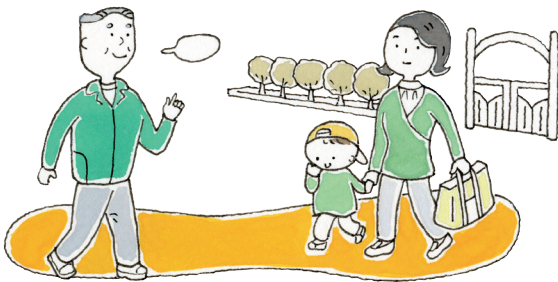
保護者との 関わり

40

挨拶しても目を合わせてくれない
ママ。どうしたらよいでしょう。

ママ自身が人見知りなのかもしれません。または、「子どもは遊ばせたいけれど、自分にはあまり関わって欲しくない」と考えているママもいます。人づきあいが苦手なママもいます。失礼な親だと決めつけず、相手から返事がなくても、こちらから挨拶はかわすようにして、「今日はいいいお天気ですね」など、他愛のない会話から始めてみるようにしましょう。

慣れてきたら、子どもを遊ばせながら、雑談してくれるようになるかもしれません。個人差がありますので、「早く打ち解けよう」などと焦らないことが大切です。



41

子どもを連れてきたのに、ほったらかしのママ。何か言ったほうがよいですか？

ママ自身、家では子どもにつきっきりで疲れているのかもしれません。安心できる場で、ママ友と話し込むこともあるでしょう。ちょっと大目に見てあげたらよいで

しょう。連日そのような感じの場合は、「〇〇くん、友だちにこんな風に声をかけていましたよ」など、子どもの良いところを伝えてあげるのもいいですね。子どもの良い面を見つけるきっかけになるかもしれません。

42

ママがひどく疲れているみたい。
何かできることはありますか？

ママが心と体を休めることは、とても大切です。子育てひろばなどでは、ママが仮眠できる場所があるところもあります。寝られなくても、ほかの大人の目がある場で子どもを遊ばせられることで、ママの心も少し休まるでしょう。雑談するだけでも、ストレス解消になることもあります。ママの様子に合わせて、ぜひ話し相手になってみてください。



43

子どもを怒鳴りつけているママがいます。どうしたらよいでしょう。

ママも疲れているのかもしれません。子どもがしたことや子どもの気持ちを「〇〇がイヤだったんだよね」などと言語化してあげましょう。すると、ママも「そうだったんだ」と子どもの気持ちに気づくかもしれません。

ほかの子に迷惑がかからないようにと気を使って「〇〇しちゃいけないって言ったでしょ」などと怒鳴りつけている場合もあります。その場合は、「こういうときは、△△したらいいよね」と、肯定文で、子どもに話しかけてみましょう。ママも、子どもへの声がけのヒントになるかもしれません。忙しい日常生活の中でストレスがたまっているのかもしれませんが、ママの話をゆっくりと聞いてあげられるとよいですね。



44

新しいプログラムを始めたい。
子どもや保護者にも相談するべきでしょうか？

子どもや保護者にも相談できるとよいと思います。プログラムを一緒に作り上げる一体感が生まれるでしょう。主催者がいる場合は、ぜひ提案してみましょう。たくさん意見が出てまとまらないこともあります。が、「みんなで考えた」という経験は、きっと今後の活動にもつながっていくと思います。

45

「子どもと接する際、子どもの普段の様子について保護者に質問することはあるが、保護者のプライベートについては極力触れない」。このようなスタンスで臨んでいることを、保護者にどのように示せばよいでしょうか。

保護者が自分から相談してきたら別ですが、こちらからあれこれ詮索するような声かけは控えた方がよいでしょう。そういうスタンスで臨んでいることを保護者に伝えておく必要があれば、保護者会などで先生から伝えていただくとういでしょう。基本的には、会話の中で相手への尊重と配慮があれば大丈夫ではないでしょうか。

46

いつも来てくれている親子と商店街でばったり会いました。こちらから挨拶しましたが、親（子ども）に無視されてしまいました。

急いでいたのかもしれないし、普段と違う服装で気がつかなかったのかもしれませんが、いずれにしても、あまり気にしないことです。今度会った時に、「〇〇学童の〇〇です。こんにちは」などと声をかけてみてはいかがでしょうか。

まれに、「地域ではあまり関わりたくない」と考える人もいます。そのような場合でも、こちらは無視することなく、挨拶を心がけるとよいと思います。

保護者から 質問を 受けたら

47

「うちの子は好奇心が強く、少し目を離すと勝手に道路など危険な場所に出てしまいます。そのような危険は、どのように防いでいただけますか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。

「屋内の場合は、基本的にドアを閉めて、遊びに集中できるように心がけます。状況によって閉め切れない場合は、支援者がドアの前に立つなどして、急に飛び出さないように見守ります。

屋外活動の場合は、主催者と相談して安全確保をします。公園などへの移動の場合は、子どもの年齢によってベビーカーに乗せたり、手をつないで保育士や支援者が道路側を歩き、子どもの安全確認をしながら移動します。

そのほか心配な場面などがあれば、あらかじめ伝えていただけると、主催者に対応を相談します」などに対応しましょう。



「うちの子どもには、うそをついたり、隠しごとをしたり、不誠実な答えや態度をしないようしつけていますが、遊んでいただくとき、そういう点についてはどのような姿勢で接していただけますか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。

「うそや隠しごと、不誠実な答えや態度などは、自分をよく見せたい、親や大人に認められたい、ダメな自分が恥ずかしい、という表れかもしれません。うまくできたときはともに喜び、できなかったときには一緒に悔しさに寄り添えたらと思います。うそや隠し事については、気づいたら正し、自分から言ってくれたときには、『ちゃんと教えてくれて偉かったね』などと、言動を認めるような対応を心がけていきます。

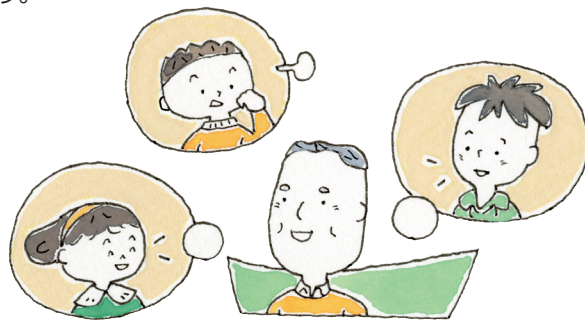
ただし、不誠実な答えや態度については、そのような行動をする理由があるかもしれません。『正しさ』で追いつめるのではなく、『そのように言われて、イヤな気持ちになったよ』などと私を主語にして伝え、『眠かったから』『今は友だちと遊びたくなかったから』など、なぜそうしたくなかったのかについて子どもに聞き、気持ちに寄り添いながら対応していくことを心がけます」などと対応しましょう。

「うちの子どもは気が弱くていじめられやすいのですが、どのように言っていただけますか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。

「保護者としては、気が弱いことがご心配なのかもしれませんが、気が弱いというのは、優しくて、よく周囲を見ているお子さんなのかもしれません。いじめはいけませんから、周囲の子がそのような関わり方をしていたら、行動を制し、お互いのお子さんの気持ちを『〇〇したかったのかな？』『〇〇してくれなかったからイヤだったのかな』など言語化できるように、促していきます。

言語発達には個人差があり、就学前などのお子さんは

まだ気持ちを言葉で伝えることが難しいこともあります。子ども同士が上手にコミュニケーションで解決していけるように、サポートしていきます」などと対応しましょう。



「うちの子どもは乱暴なところがあって、わがままなのが心配ですが、叱ると反発し、言うことをきかなくなり、泣き続けて隠れてしまったりします。うまく対応していただけるのでしょうか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。

「お子さんの年齢によりますが、うまく自分の気持ちを伝えられなかったり、思い通りにできないことに苛立って、つい相手に手を出してしまうなどの行動をしてしまうことがあります。乱暴しそうになって危ない状況になれば、その場ですぐに制します。落ち着いたら、気持ちを話してもらうように促します。

反発したり、言うことを聞かなかったり、泣き続けるお子さんは、気持ちの切り替えに時間がかかっているのかもしれません。子どもの、イヤだったり、うまくいかなかったりという気持ちも、周囲の者が大事に受け止めたいと思います。

気持ちを尊重されて、ゆっくり会話を重ねていくことで、子どもの気持ちもほぐれていくことでしょう。そのような関わりを

大事にしたいと思います」などと対応しましょう。



51

「うちの子どもは、自由な発想ができる人間に育つように、なるべく仕切らず自分で考えさせたり、どうしたいか意見を聞いて対応するようにしてきているのですが、そういう点についてはどのような配慮をいただけるのでしょうか？」と聞かれたら、どのように対応すればよいでしょうか。

「保護者の方が、わが子に自分で考えさせたり、どうしたいか意見を聞いて対応していらっしゃるの素晴らしいですね。友だちやいろいろな人とコミュニケーションを取りながら、考え、自己決定できることが子どもの成長・発達にとっても大事であると言われていますので、心がけたいと思います。

活動の中でも、できるだけ、それぞれのお子さんの気持ちを大事にしながら、子どもたちが自己決定できるような関わりをしていきます。活動の中で、お気づきの点などあれば、今後ぜひ教えてください」などに対応しましょう。



そのほか 知っておきたいこと

52

風邪や手足口病など、子どもが集まる場で流行する感染症があるけれど、高齢者が気をつけなくてはいけないのはどんなこと？今、流行している感染症を知る方法や対応の仕方も知っておくべきですか？

季節によって感染症が心配です。体調が悪いときは無理して参加せずに休みましょう。高齢者が子どもからうつってしまう場合もありますから、感染症が流行しているときは、イベントや交流を中止した方がいいかもしれません。主催者が判断すると思いますが、心配なら問い合わせてみましょう。

感染症の流行は地域によって違うため、新聞やテレビのニュースなどとは少し実情が違うこともあります。今

53

万が一のために、救急救命法の講習を受けたり、避難ルートの確認をしておいたりしたほうがよいですか？

子どもとの交流のためだけではなく、地域の高齢者として、ぜひ機会があれば救急救命法の講習を受けておきたいですね。いざとなったときに、きっと役立つことでしょう。また、最近は自然災害もありますから、地域のハザードマップや避難場所を確認したり、避難ルートもチェックしておくとういでしょう。交流時に急な災害が起こる可能性もあります。園の先生や拠点の担当者と協力して、子どもたちの安全を守りましょう。



地域シニアが
子どもたちと共に遊ぶ「どう遊ぶ？」QA

発 行：公益財団法人さわやか福祉財団

作 成 協 力：にっぽん子ども・子育て応援団

西野博之

認定NPO法人フリースペースたまりば理事長

杉啓以子

社会福祉法人江東園経営企画本部長

発行年月日：2022年3月

住 所：〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館7階

U R L：https://www.sawayakazaidan.or.jp/
